

もっと深めよう！もっと拡充しよう！

【森とせせらぎ】のつながりを  
森とせせらぎネット 副代表 松本浩次郎

【森とせせらぎネット】は7年を経過し、活動が広がってきました。昨年5月に立川市の「根川緑道」を見学し、自然保護の大切さを再認識しました。一昨年のアンケート調査をもとに、6月に「第4回せせらぎシンポジウム」を行い、川崎市の公園課、下水道課と地域の方々が話し合いました。その結果、夜間照明や子供たちの遊具が改善され、水際の防護木柵も一部改修され、明津橋など一部にカーブミラーも設置され、遊歩道周辺の交通の見通しがよくなりました。

【森とせせらぎ】のつながりが深まってきました！

お盆の「灯笼流し」も定着し、子供たちが「たらい流し」を楽しみ、夕暮れとともに大勢の家族がご先祖様と「東日本大震災と原発の犠牲者」に、祈りをささげました。10月28日の「第6回森とせせらぎ祭り」も大勢の協賛者に後押しされ、小雨交じりにもかかわらず、周辺住民の大勢の方々が舞台や模擬店を楽しみました。

① 昨年、警察署と確認した安全対策：カーブミラーと注意標識：が未設置。  
② せせらぎ水路の「藻対策」が3月22日発表された：「高圧洗浄と清掃後の乾燥」「10年後の水質改良」など。  
③ 「EM液」(有用微生物で浄化を定着させるモノ。確認実験が必要)の実験は否定。  
④ せせらぎ公園部分の「土が消失」などが「せせらぎ維持管理」の課題として挙げられます。これらは6月に予定される「第5回せせらぎシンポジウム」でもぜひ取り上げ、行政、10町会管理運営協議会と一体となって、「せせらぎの環境維持向上」に取り組んでいきたい、と願っています。

また、ひとみ座関連の人々が、井田山で「ホテルをとぼそう」と取組みを始めました。

【森とせせらぎネット】の課題は、「会員の老齡化対策」です。これは日本全体の課題でもあります。地域にはありませんか。

また、ひとみ座関連の人々が、井田山で「ホテルをとぼそう」と取組みを始めました。

【森とせせらぎネット】の課題は、「会員の老齡化対策」です。これは日本全体の課題でもあります。地域にはありませんか。

地域活動参加申し込み・お問合せ 連絡先 080-346114003 田辺 090-88131076 松本

せせらぎは綺麗になるか？ EM実験地を見学して

田辺 勝義

せせらぎ水路の汚い藻をどうすればなくすることができるか、川崎市も実験を始めています。私達も立川市の水処理場を見学して問題を提起してきました。そこにEMという微生物群液を使って悪性微生物群を除去できるという情報が入ってきました。それを広める運動をしている吉田さんは、せせらぎをきれいにすることは簡単だと言うので、実際に実験が行われている場所を見に行きました。等々力公園の池に関しては、工事が行われており、外観上からは分りませんでした。資料は示されませんでした。登戸の下水溝に臭いはするは、ヘドロ状のものはあるは、酷い臭いはするは、期待はずれでした。説明によると、雨の後は向ヶ丘駅前の下水貯留管のヘドロが流下するので、汚くなってしまうとのことでした。

EM液に關しては、川崎市の上下水道局の田口さんは、市の実験の報告(資料請求中)をし計画を実施してか、ら検討する、EM液を使つてほしいということでの実験は待つてほしいということでした。3月22日に市の説明会が行われました。その報告は別項に譲ります。

森とせせらぎネット及び関連団体イベント紹介

- 森とせせらぎシンポジウム  
「せせらぎをどう綺麗にするか」  
6月16日(日)1時半～ 老人ホーム「せせらぎ会議室」パナラー 川崎市公園緑政課・上下水道管路課(予定)、吉田賢治(EMエコインストラクター)他
- ひとみ座 寄席を楽しむ会 5月25日(土)①3時、②7時、落語 入船亭扇遊、橋家富蔵 紙切りもあり 前売り1700円、問合せ 777-2525
- 井田囃子保存会  
7月迄行事無し。稽古毎週金曜日6時半、井田小体育館・参加無料、小学生大歓迎、大人の方も歓迎 問合せ 76602650
- ひとみ座 乙女文楽若手公演 5月3日(祝)金3時、5月4日(祝)土①11時、②3時、演目「二人三番 豊」「壺坂靈験記」料金2500円 問合せ7772228
- 井田山・市民健康の森を育てる会  
毎月第1木曜 井田山クリーンデイ 9時、5月6日(日) フリーマーケット 5月13日(日) 里山研修会 6月24日(日) 下草刈り
- 神庭・里山を楽しむ会  
4月28日(土)、5月6日(日) たけのこ掘り9時、5月26日(日) 草刈り、竹林管理 6月23日(土) 草刈り、サツマイモ植え

「藻類抑制調査報告会」が行われました。 稲本文雄

三月二十一日十時より「森とせせらぎネット」の声掛けにより、川崎市上下水道局では、江川せせらぎ水路環境改善対策の一環として、今回が二回目となる「藻類の抑制に関する調査報告会」を、特別養護老人ホーム「せせらぎ」に於いて、近隣の町会長や有志を対象として行いました。第一回は、「森とせせらぎネット」の役員に対して、此れまで行っていた水路での調査内容の報告と、これから進める予定の調査の概要について説明が行われましたが、その調査結果が纏まった為、今回の説明会が行われる運びとなり、上下水道局からは、田口担当課長をはじめ全体説明に当たった田目氏など四名の出席を頂いて行われ、

- 一、調査の目的
  - 二、基礎調査の結果
  - 三、付着藻類の調査結果
  - 四、高圧洗浄による効果確認
  - 五、課題の整理
  - 六、付着藻類の形成メカニズム
  - 七、せせらぎ水路における発生要因
  - 八、対策方法
  - 九、影響調査等の結果
- 以上の各項目に従って、丁寧な説明が有りました。自然の河川と、江川のような人口河川では、藻の成育状態だけに限っても、大変な違いがあることを改めて感じさせられました。しかしながら、私達遊歩道利用者も最も関心を抱いている景観と悪臭の改善について、幾つかの対策案は示されたものの決定的なものはありませんでした。現時点での上下水道局の対策方針は、現在の環境に最も適した生命力の強い「オオシソウ」の基部細胞が河床の目地部分に強靱に根づいている為、高圧洗浄だけでは除去しきれない。出来る限り一度りセットしたい。藻は乾燥に非常に弱いので、「干し上げを同時に行い、藻の増殖を抑えるのが効果的」との考えから、分流などの方法により、少しずつ干し上げ時間を長く出来る箇所を作つて行き効果を上げたこと。参加者からはEM(有用な微生物群の活用)などについて意見が出されましたが、此れについては田口担当課長より「市の管理者の立場では、異物を流すことに關しては、明確な効果を示すデータが無い物について考慮する事は有りません」との考えが改めて明言されました。



# 各地のまつり番外編 子どもプロデューサーたちの催し

佐藤 克明

この記事は、せせらぎネット  
ワークのHP上で詳しくご覧  
になれます。  
「せせらぎネット」で検索！

わたしは二十数年前から、自治体などに提案して、各地で文化プロデューサー育成講座を行い、その人たちが推進力になって、廃れかけていた伝統文化をさかんに行ったり、文化施設を活用したりする活動を支援してきました。

今回の話は、わたしが講座の講師を依頼した名古屋のリターナーNさんから聞いて関心をもち、取材をしたものです。

昨年春、Nさんが各務原子ども劇場の小学生部で、子どもプロデューサー講座の案を出したところ、「ぜひやりたい、子どもたちもこれは参加したいと思う」ということで、準備が始まりました。

講座は、①顔合わせとみんなで作る仲間づくり、②企画会議と必要なものの作成、③④作成や出し物の稽古、⑤通し稽古、本番、打ち上げの五回。隔週で①から③は夜二時間、④は土曜日の四時から八時、⑤は日曜日の朝から五時まで。

⑤が十二月二十三日だったので、催しはクリスマス会となりました。



司会者の声で一斉に動く観客



最後の修了式・片付けまでみんなが笑顔

中身は、ハンドベル演奏、ドラマ、ソングとゲーム、幽霊登場など。これを考えて準備したのは子どもたちです。子ども劇場のお母さんたちは口を出したいところもあったようですが、子どもの自主的な議論や作業を見守り、Nさんも最小限の助言助力だけにしていました。

子どもたちは、「お家さんを感動させるものになりたい」という目標を立て、企画を考えあい、予算を立て、紙で小さな手袋型に切り抜いたチケットを作るなどさまざまな工夫をしました。当日の進行も時間が延びたら臨機応変に対処していたということでした。

子どもたち全員を名前にP（プロデューサー）の略をつけて呼ぶなど、子ども扱いせず、自覚と自立、仲間との協働を育てた催しで、子どももおとなも準備から楽しみ、満足し、「またやりたい」という思いを抱いたということでした。

プロデューサー十八人、四、六年生、参加者約百三十人。参加費では赤字が出たところを、楽しかった準備からの記録DVDを作成して売ってまかない、催しのおひねりを打ち上げのお菓子代に当てました。

## 連載「詩吟―続」最終回

稲本 吼信

秋季大会会場  
僕に近寄り手を握り  
やっとな成士になりました  
可愛い彼女の目に泪

成士は一般的には、奥伝を頂いてから三、四年で頂けます。直属の師範からの推薦で、連合会長を通して申請書が出され、それを基にお家元が判断し、許状を出されます。現在は、昇段審査の場で許状を頂きますが、昔は、初吟会（一般の新年会と同じ）や、秋季大会（師範大会）などで、晴がましく壇上で頂くので、嬉しさもひとおだった事でしょう。

吼山流小唄は、七番まで有ります。四番、五番とはばしましたが、成士になつ

た所で終わりになっています。「習い覚える」段階は此処で終わり、此れよりは、後輩の指導に重きを置く、師範の道へと入ります。「習い覚える」ことから「教え学ぶ」事へと立場が変わりますが、此れが大変難しい。此れまで自分がやって来た修練の力量が試される時なのです。

昔は、奥伝を頂いた頃は、数人のお弟子さんが居て、自分も習いながら、お弟子さんに教えていた方々が沢山居られました。今は、師範でありながら、お弟子さんを持たれていない方が、沢山居られます。師範として最も大切な「お教える事」によって学ぶ機会が、大変少なくなりました。

今、時代の変遷に戸惑いながら、日本の文化詩吟を継承する私達は、進み行く

## シリーズ「地産地消 中原・高津の農家

農家直販所の取材も今回で九回目を迎えました。

取材を重ねるうちに自然と中原区・高津区を交互に訪ねることになりました。

今回は中原区の長瀬守之さんの直販所です。三月初旬の晴れた暖かい日の取材でしたが、あいにく畑を休ませていたところ、作物は写真の小松菜とレタスのみでした。

長瀬さんの畑は井田のほかに数カ所あるそうで、プロックや、ホウレンソウ・ジャガイモ・玉ねぎなどが販売されています。

以前取材した、同じく中原の内藤さんのお話にも出てきましたが、話にも出てきました。話を増やすことに苦心されているようです。

そして、長瀬さんの幼いころには、畑の前の水路が流れ、一帯は水田だったということでした。

現在、畑周辺は住宅に囲まれています。貴重な「緑の空間」と言えるでしょう。



長瀬さんの直販所

記者がこの企画を始めた理由もそこにあります。いまは数少なく貴重な田畑を残したいものです。収穫された新鮮な作物は、近所の方々の早い者勝ちで、売り切れのついでに、旬の野菜には「旬の意味」があるようです。

これから夏に向けての野菜は、夏の健康の手助けをしてくれることで、その健康の基本は食から、そこには愛情を込めると「忘れられない家庭料理」となるのではないのでしょうか。記者・本間



小松菜

直販所：中原区井田杉山町4-23



高齡化社会の中で、此れからの若い人達への、正しい詩吟の継承へ、足並みを揃えて行かねば成らないうと、心より思っています。

稲本氏による連載は最終回となりました。次回からは、地元根差した古典文化芸能の連載を予定しております。お楽しみに！

完

【お詫び】  
前27新年号で一部印刷に不備がありました。大変申し訳ありませんでした。また、「意見」に寄せたご感想などお氣に申し上げます。ホームページでも同時にカラー版を掲載しておりますので、是非ご覧ください。